

■ 科学技術賞（個人）

いとうよしと

伊藤義人

名古屋大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授

環境促進実験による鋼橋の防食システムと免震支承の性能劣化評価手法の確立

土木構造物の代表である橋梁のライフサイクルにおけるウェザリング技術に関して長年研究を実施し、この分野で大きな研究実績を挙げている。10年以上前から、種々の環境促進実験装置を導入し、各種の長期間の実験を行うとともに耐久性の新しい評価手法を開発提案している。

特に、鋼橋の維持管理に重要な要素である塗装および金属皮膜の防食システムに関して、各種の環境促進実験を行い、防食システムの性能評価手法の構築に貢献し、酸性雨による橋梁の各種の塗装および金属皮膜防食システムの劣化特性を、初めて明らかにした。

また、耐震部材として近年重要性を増している橋梁免震ゴム支承の劣化問題にも取り組み、材料レベルから部材レベルまで扱い、世界で初めて長期劣化予測モデルを確立して、橋梁の耐震性能の評価手法に大きな貢献をし、ウェザリング技術の橋梁への適用と高度化に寄与した。

（推薦団体：名古屋大学）

（所属・肩書は受賞当時 敬称略）